

令和4年度 第3回
学校関係者評価委員会 信頼される鹿商のための委員会

1 日 時

令和5年2月17日（金） 10:00～11:30

2 場 所

本校管理棟2階 資料室

3 出席者

学校関係者評価委員（6名）

元幼稚園園長、元NHK記者、前町内会長（下宿主）、公立中学校長、同窓会副会長、
PTA副会長

校内委員

校長、教頭、事務長、教務主任、生徒指導主任、進路指導主任、保健主任、商業科主任
教務部（記録係）

4 会 順

(1) 学校長あいさつ

(2) 各部等の年度反省と今後の課題

ア 教務部

(ア) 本年度の取組状況

a 生徒募集に努める

(a) 学校説明会の参加、中学校への訪問、中高連絡会の開催。

(b) 「中学生の1日体験入学」を7/28（水）、8/29（月）の合計2回実施し、計150名（1回目：30名、2回目：120名）の中学生が参加。

10/22日（土）に「オープンキャンパス」を実施、29名の中学生が部活動や授業を体験。

(c) 学習塾との連携。

(イ) 学力の向上に努める

a 教室の室内環境の共通理解。

b 習熟度別学級編成。

c 教員の授業方法の工夫・改善と指導力向上に向け、職員研修を実施。

(ウ) 地域との連携を深める

a 体育祭を9/10（土）に実施、3年ぶりに3年生によるパネル作成とやぐらの設置を行い、1・2年生による花作りも本格的に実施した。

b 文化祭を10/29（土）に開催、日頃の学習の取組の成果やクラスごとに作製した作品展示、バザー等を実施しました。

(エ) 次年度に向けて

a 学力向上

個別最適な学び及び協働的な学びを実現し、生徒の学力向上に努める。

b 生徒募集

一人でも多くの中学生に鹿商の良さを知ってもらえるよう努める。

イ 生徒指導部

(ア) 本年度の目標（重点項目）

a ビジネスで通用する身だしなみ・礼儀作法の習得。

b 基本的な生活習慣の確立と問題行動の未然防止。

c いじめ問題やネットトラブル及び不登校の未然防止・早期発見・対応。

- (イ) 本年度の計画に対する進捗状況
 - a 活気ある、元気な鹿商生の育成。
 - b 不法行為や校則違反及び交通事故・違反の未然防止。
 - c 暴力行為やいじめの未然防止。
 - d ネット犯罪やネットトラブルの未然防止⇒講話を実施することができた。
 - e 不登校・長期欠席者への早期対応。
 - f 生徒指導体制の充実 ⇒ 6月と9月に職員研修を実施することができた。
 - g 校則の点検と見直し ⇒ アイスクリームの自販機導入。
 - ⇒ 学校指定通学鞆の廃止（R5年4月～）。
 - ⇒ 防寒着類の着用許可（R5年2月1日～）。
 - ⇒ バイク通学に関する規定改正（R5年度から許可予定）。
 - h その他項目についても生徒指導提要の改定に伴い見直しを進めている。

ウ 進路指導部

- (ア) 本年度の計画に対する進捗状況
 - a 「紫雲タイム」の実施。
 - b 「学びの基礎診断テスト」（校外模試）の実施。
 - c 高校生活および卒業後に向けたキャリア教育の充実。
 - (a) 進路・就職ガイダンスへの参加。
 - (b) インターンシップの代替となるフィールド学習（ローカス）の実施。
 - (c) 合格者体験発表会の実施。
 - 大学・専門学校での模擬授業を実施予定。
 - d 適切な進路情報の提供。
 - e 課外指導。
 - f 個別指導。
 - g 求人公開の在り方の見直し。

- (イ) 本年度の進路決定状況
 - a 求人状況 各企業から鹿商生が欲しいという声が多い。
 - b 就職決定状況 京セラ・日立製作所等（県内志向が強い）。
 - c 進学決定状況。
 - d 公務員決定状況。

エ 保健部

- (ア) 本年度の計画に対する進捗状況
 - a 部活動。
 - b 体育的行事スポーツテストは授業で実施。
 - c 保健行事 各種定期健診、各体育的行事における学校医による健康相談を実施。
- (イ) 感染症及び熱中症の予防・対策の徹底 現在コロナ1名、インフルエンザ0名
- (ウ) 保健関係行事についても感染対策徹底の上、実施へ向け検討中

オ 商業科

- (ア) 本年度の計画に対する進捗状況。
 - a 地域と協働活動への取組。
 - b 食堂のカレーライスの商品化。
 - c 他校種連携・地域連携への取組。
 - d 専門的職業人の育成。
 - e 習熟度・類型制度の発展・充実。

(3) 学校評価アンケート結果報告

- ア 職員の自己評価 「確かな学力」が減、新学習指導要領への対応が要因と推測する。
「情報教育」が増、タブレット導入等ICTの活用が要因と推測する。

- イ 生徒の評価 「自宅学習」が低水準。「自宅学習の習慣化」が課題である。
- ウ 保護者の評価 全体的に減、今回はWEBで実施したため、率直な意見が多く、減少に転じたと推測。毎年「読書活動」が低い、分析して次年度への課題として活かしていく。

(4) 質疑応答、提言

ア 校則見直しについて

- ・ 冬服の胸及びカッターシャツの鹿商マークを明記した方が良いのではないか。
- ・ インナーの色が「華美」との表現は曖昧ではないか。
- ・ ツーブロックを一概に禁止するのは今後難しいのではないか。
- ・ スニーカーソックスの着用禁止は不適切ではないか。
- ・ 深夜のアルバイト禁止を明記すべき。時間を明記すべきではないか。
- ・ 資料に記載されている内容は生徒との話し合いを経たうえでの内容か。
→ 生徒と話し合いを設けたうえでの内容で。
- ・ 全員が納得する内容にするのは困難だと思われるが、生徒がどのようにしたいか、生徒から意見を吸い上げることは不可欠。また、今の生徒たちには事細かに説明することが必要ではないか。
- ・ 公立高校の校則について、何か基準はあるのか？
→ 校長が定めるとされている。
- ・ 伝統ある鹿商の制服に対する憧れがある中学生もいるのではないか。
- ・ 全国唯一の男子校というアピールがもっとできないか。
- ・ 誰が見ても鹿商生とわかるような制服や鞆等があると良いのではないか。
- ・ 校則見直しに伴って試行期間を設けることは重要、改定には丁寧な流れが大事である。
- ・ 昔は鹿商の柔道着のマークを見て圧倒されていた。
- ・ ジェンダーレス等に伴って物品の制限が緩和されたことにより、購買部と市販価格に差があることで購買部への予約注文数が激減した。業者とのこれまでの関係性が崩れる懸念あり、丁寧なやり取りが必要である。
- ・ 見直しには徹底した話し合いが必要、曖昧な表現は避け具体的な明記が必要である。
- ・ 幅をどこまで持たせるのかも検討する必要がある一方、生徒自身に考える部分は残すべきではないか。
- ・ 今後に備えて、その他の項目にさらに「その他」を設けるべきではないか。
- ・ 今回の見直しは生徒にどのように伝わっているのか、生徒からの意見はどのように吸い上げるのかを検討すべきである。
- ・ バイク通学に関してはどれくらい検討したのか、通学以外のバイクの扱いはどうなるのかなど、バイクは非常に危険なため慎重な議論が必要である。
- ・ 通学バスを走らせることはできなかったのか、通学バスの方がケガと遅刻を減らせるのではないか、市立高校の特性を生かして市を巻き込んで検討できないものか。
- ・ 逆にバイク通学には賛成。高校生は大人になる準備期間であり、自分で交通ルールを守らせることも必要。
- ・ 始良地区の高校ではバイク通学は珍しくない。学校指定ステッカーが義務づけられている。

イ その他質疑応答

- ・ アルバイトの職種の規定はあるのか。(生徒指導部)
→ 法律等に即し、不可業務と時間等の指定がある。
- ・ 中学生への説明の際、3年後のゴールをどのように説明しているか。(教務部)
→ 中学校での説明はパワーポイントを用いて実施。AIの導入及び人手不足になる中で、不変なものが商業であり、鹿商卒業後は就職はもちろん、進学もできると説明している。
- ・ 10名が立候補した生徒会選挙の概要を教えてください。(生徒指導部)
→ 各学級で立候補者を募り、今年は10名が自ら立候補した。

- ・ SPIとはなにか。(進路指導部)
 - SPIとは総合適性検査のこと。SPIの中にある「判断・推理」の問題は論理的思考力を問うものであり対策が必要なため、3年生は紫雲タイムで対策を実施している。
- ・ 佐田下宿の歴史、伝統がなくなってしまうのが残念。
- ・ 中学校の校長として、鹿商の伝統をどう生かすのか、鹿商のいいところをもっと宣伝できたのではと感じる。鹿商に行けば様々な進路に進めるということをどう中学生に伝えるかを考える必要あり。
- ・ 校則見直しで鹿商のイメージも変わると思われるため、それも含めて中学校へどのようにPRできるかが課題である。進路決定の情報を早期に入手して中学生にPRしていくと良い。
- ・ バイク通学は苦渋の決断と認識しているが、死亡事故は避けられないため、完全に防ぐことはできないが最大限の策を打つべきである。
- ・ 今後も鹿商の伝統を継承してほしい。
- ・ 保護者からの意見も、厳しいご意見こそ真摯に受け入れるべきだ。
- ・ 自動車学校への入学をあと1か月早められないか。進学と就職の時期が異なるのであればそれを切り離して考えてほしい。
- ・ 今年度の進路実績に大相撲の「呼び出し」も加えてほしい。
- ・ 鹿商をよくするために、もう1段先生方で結束して取り組んでほしい。
- ・ 若者の新聞やテレビ離れに伴い、活躍の記事が中学生等に届かないのではないかな。広報の面で市と連携し、市の広報誌等に鹿商のコーナーなど作れないか。
- ・ 鹿商のSNS (YouTubeやTwitter等) を作って発信できないか。
- ・ 西坂元には町内会やまちづくり協議会があり、それらと連携して発信していくことも必要ではないか。
- ・ 商業の検定合格実績も資料に載せてはどうか。税理士や公認会計士として活躍されている先輩方へインタビューしたり、招いて公演等を行う等先輩とのつながりを深められないか。それが生徒募集にもつながるのではないか。
- ・ NHKで大分の日田三隅高校番組があり、非常にいい取組をしていた。高校卒業時「30歳のレポート」を課題として出し、30歳になった時に発表してもらおうというもの。そこで述べられていたのは「調べる・まとめる・発表する・聞く」の4項目だった。鹿商でも先輩を招いて話をしてもらおう取り組みはしており、良いと思った。
- ・ 資料に保護者からの評価・意見を載せたのは初めてだと思われるが、非常に良い取組だと思う。今後はどうつなげるのが大事である。